

ポリウエイフ農業総合試験場

長期総合試験研究計画

研究目標	研究課題		期間	1988/89年度試験項目	担当者	備考
	大課題	中課題 小課題				
畑作物の栽培技術の改善と経営の安定化	I 大豆栽培技術体系の確立	1. 適品種の選定	(1) 導入育種による適品種の選定 (1) 耕起法と収量 (2) 除草剤の経済的適量 (3) 殺虫剤の経済的適量 (4) 経済的施肥量 (5) 播種期試験 (6) 栽植密度試験 (1) 導入育種による適品種選定	86～	内田・森田 森田 森田 森田 内田 内田	第1期完了 “
		2. 栽培法の改善		87～89		
		3. 基礎試験		87～		
				89～		
				83～85		
				83～85		
II 小麦栽培技術体系の確立	1. 適品種の選定	86～	・CIA T選抜系統の品種比較試験 ・CIA T選抜系統の品種比較試験 ・CIMMYT選抜系統の品種選抜予備試験	内田 内田		

研究目標	研究課題		期間	1988/89年度試験項目	担当者	備考
	大課題	中課題				
		小課題				
Ⅱ トウモロコシ栽培技術体系の確立	2.栽培法の改善	(1)播種期試験	82~86	<ul style="list-style-type: none"> • CIA T奨励品種による播種量及び栽植密度試験 • 殺虫剤の濃度及び散布量の比較試験 • CIA T選抜系統の品種比較試験 • トウモロコシ F₁ の育種 • FAO 共同トウモロコシ施肥試験 	内田	第1期終了
		(2)播種量及び栽植密度試験	87~			
		(3)殺虫剤の経済的適量	89~			
Ⅳ 稲作栽培技術体系の確立	1.適品種の選定 2.栽培法の改善	(1)導入育種による適品種の選定	86~	<ul style="list-style-type: none"> • CIA T選抜系統の品種比較試験 • トウモロコシ F₁ の育種 • FAO 共同トウモロコシ施肥試験 	内田	87年度限り
		(2)トウモロコシ F ₁ の育種	89~			
		(1)経済的施肥量調査	87~			
	1.適品種の選定 2.栽培法の改善	(2)栽植密度試験	89~	<ul style="list-style-type: none"> • CIA T選抜系統の品種比較予備試験 	森田	
		(3)播種期試験	89~			
		(1)導入育種による適品種の選定	87~			
	2.栽培法の改善	(1)経済的施肥量の調査	89~		森田	
		(2)除草剤の経済的適量	89~			

研究目標	研究課題			期間	1988/89年度試験項目	担当者	備考
	大課題	中課題	小課題				
	V ソルゴ一栽培技術系の確立	1. 適品種の選定 2. 栽培法の改善	(1) 輸入品種の中から適応品種の選抜 (1) 播種期試験 (2) 栽培密度試験	87～	・ソルゴ一品種比較予備試験		88年は休止
地力の維持増進技術の確立	I 緑肥栽培施用技術の確立	1. 適品種の選定	(1) 緑肥作物の導入栽培とすき込み効果試験	87～	・緑肥作物の導入栽培とすき込み効果試験		88年は休止
	II 輪作体系の確立	大豆、小麦、トウモロコシ、稲 緑肥を組入れた輪作体系の確立	(1) 輪作に関する試験 (2) 不耕起栽培に関する試験	86～ 89～	・輪作に関する予備試験		88年は休止
新規永年作物の導入と開発	I 新規永年作物の導入に関する試験	1. 適品種の選定	(1) マンゴ適品種の選定 (2) アボガド適品種の選定 (3) マカダミア・ナッツ適品種の選定	87～ 87～	・マンゴ改良品種の導入と接木 ・アボガド改良品種の導入と接木	小金丸 "	

研究目標	研 究 課 題			期 間	1988/89年度試験項目	担当者	備 考		
	大課題	中 課 題	小 課 題						
								大課題	中 課 題
乳・肉牛飼養の改善と経営の安定	I 養牛技術の確立	1. 肉用牛肥育に関する試験	(1) 肉用牛の増体試験	78~87	• 肉用牛の増体予備試験 • 肉用牛の肥育	日高 "	第1期完了		
			II 飼養管理技術の確立	1. 牧草適品種の選定				(1) 牧草適品種適応性試験 (2) マメ科牧草の導入試験	87~ 87~
				(3) 牧草収量試験	88~	• 放牧地における牧草の収量試験 • イネ・マメ科牧草混播栽培試験 • ブラッキヤリヤ、ジャラダ 乾草飼料作成試験 • ソルゴー、メルケロンのサイレージ作成試験	"		
				(4) 牧草混播栽培試験	88~				
				2. 牧草調製法の確立	(1) 乾草飼料作成試験				89~
				(2) サイレージ作成試験	89~				
					(3) 乾草及びサイレージ給与効果試験	89~		"	
					3. 牧野改良方法の確立	(1) 老朽牧野再生試験			
		4. 牧場構造の改善と効率的運用に関する試験	(1) ダムの防除に関する試験 (2) 飼育密度の増加試験						

アルゼンティン園芸総合試験場

研究目標 カーネーションの栽培技術改善
 大課題 優良系統選抜に関する試験
 小課題 優良系統の選抜試験
 試験項目 カーネーション無病苗生産のための優良母本選抜試験

アルゼンティン園芸総合試験場
 担当者 佐々木、脇田、長町、稲葉

1988年度

目的	カーネーション栽培に必要な優良母本の確保のため、優秀なカーネーション栽培農家の圃場にて優良株の第一次選抜を実施し、当試験場において更に第二次選抜を実施した。																														
試験方法	<p>1. 一次選抜 1988年5月中旬から10月上旬の間、グレウ、エルパト、コロニアウルキッサ、コロニアラブラタ、その他の地区にて優秀な邦人カーネーション栽培農家を対象としてカーネーション植付け後の初期成育の良い物にテープで印を付けた。 その後、印を付けた株を回 観察し、それぞれの品種の特徴をよく備えて良質の花を付けている株を選出した。</p> <p>1) 品種および採穂数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>SCANIA 118</td> <td>ATLANTIS 85</td> <td>ARATHER SIM 68</td> <td>WILIAM SIM 120</td> <td>LE REVE 150</td> </tr> <tr> <td>SACHA 70</td> <td>WHITE SIM 96</td> <td>NORA 100</td> <td>PALLA 86</td> <td></td> </tr> <tr> <td>SUPER WHITE 50</td> <td>VANEZZA 78</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>2) 選抜対象農家数 11戸</p> <p>2. 第二次選抜 第一次選抜で得られた優良株の側枝を当試験場にて発根させた後プラスチックハウス内の 揚げ床ベンチで同一条件下にて比較栽培した。</p> <p>1) 品種および栽培株数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>SCANIA 66</td> <td>ATALANTIS 42</td> <td>ARTHUR SIM 48</td> <td>WILIAM SIM 48</td> <td>LE REVE 46</td> </tr> <tr> <td>SACHA 48</td> <td>WHITE SIM 36</td> <td>NORA 52</td> <td>PALLA 52</td> <td>SUPER WHITE 36</td> </tr> <tr> <td>VANEZZA 64</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>2) 耕種概要 定植—1989年1月6日 栽植密度 ベンチ幅 77cm に4条植え株間12cm×24cm 摘心方法 一回半摘心 (1989年1月19日と1989年2月9日) 用土 カンナ屑30% 混入土 その他 施肥および管理一般は当試験場の栽培基準による。</p>	SCANIA 118	ATLANTIS 85	ARATHER SIM 68	WILIAM SIM 120	LE REVE 150	SACHA 70	WHITE SIM 96	NORA 100	PALLA 86		SUPER WHITE 50	VANEZZA 78				SCANIA 66	ATALANTIS 42	ARTHUR SIM 48	WILIAM SIM 48	LE REVE 46	SACHA 48	WHITE SIM 36	NORA 52	PALLA 52	SUPER WHITE 36	VANEZZA 64				
SCANIA 118	ATLANTIS 85	ARATHER SIM 68	WILIAM SIM 120	LE REVE 150																											
SACHA 70	WHITE SIM 96	NORA 100	PALLA 86																												
SUPER WHITE 50	VANEZZA 78																														
SCANIA 66	ATALANTIS 42	ARTHUR SIM 48	WILIAM SIM 48	LE REVE 46																											
SACHA 48	WHITE SIM 36	NORA 52	PALLA 52	SUPER WHITE 36																											
VANEZZA 64																															
試験結果	<p>第二次選抜の結果得た品種および優良株数は次のとおりである。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">赤</td> <td>SCANIA 10</td> <td>WILIAM SIM 10</td> </tr> <tr> <td>白</td> <td>WHITE SIM 9</td> <td>ATALANTIS 10</td> </tr> <tr> <td></td> <td>SUPER WHITE 10</td> <td></td> </tr> </table>	赤	SCANIA 10	WILIAM SIM 10	白	WHITE SIM 9	ATALANTIS 10		SUPER WHITE 10																						
赤	SCANIA 10	WILIAM SIM 10																													
白	WHITE SIM 9	ATALANTIS 10																													
	SUPER WHITE 10																														

ピンク	NORA 9	LE REVE 5
複色	ARTHUR SIM 10	
黄色	PALLA 10	
紫	SACHA 6	VANEZZA 7

考察

昨年同様第一次選抜の対象となる栽培農家戸数が少なくまた栽培農家も花きり作業に労働者を使用するためせかく印を付けた選抜株に十分な注意が払われていないケースが見られた。この点農家の理解が必要であるとともに第一番花、第二番花の時期に積極的に優良株の選抜を農家が行なうという方向に意識を改めていかねばならない。

本年は、スリップの発生が多い年であったため、特に春から夏にかけての時期に花卉に斑点の出ることがあった。一昨年も同じような傾向があり、スリップなのか変異しているのか確定できなかった。2・3の選抜対象圃場でイチョウ病の発生が見られた。当試験場原種が活用されていないことが大きな要因である。第一次選抜対象となる農家は、数年来変化していない。また、いずれの対象農家も当試験場の原種より増殖した系統を栽培しているため優良株選抜対象となる範囲が狭い。同品種であるとはいえ、新系統の血の導入の検討も必要である。

主要成果の
具体的データ

別添1.2のとおり

別添 / 具体的データ 第二次選抜した優良母本の各品種における株あたり平均値

品種名	選抜株数 ①	採花 開始日 ②	一株あたりの時期別採花本数				計	切花 莖長	切花 節数	切花 重量	切花の品質 ③				花径	花重	花色	花卉 数	上物 率% ④
			200 201~ 250	251~ 300	301~						上	中	下	GA					
scania	10/66	4/28	3	6	7	2	18	54.0	6	24.8	16	2	1	2	6.5	7.7	8	59	88.8
william sim	10/48	5/15	3	5	7	4	19	54.5	6	24.8	16	3	1	2	6.9	7.4	7	57	84.2
white sim	9/36	6/12	2	5	8	4	18	51.7	6	22.4	14	4	2	2	7.4	8.0	8	56	77.8
super white	10/36	5/15	3	6	5	5	19	54.3	7	25.6	16	3		2	7.3	8.5	8	61	84.2
atlantis	10/42	5/22	2	4	9	9	24	53.2	6	24.3	21	3	1	2	7.1	7.9	8	58	87.5
le reve	5/46	6/ 5	3	4	3		10	54.8	6	27.3	10				7.3	9.7	8	61	100
nora	9/52	5/15	3	5	4	1	13	55.6	7	27.9	11	2	1	1	7.3	9.0	8	62	84.6
arthur sim	10/48	5/ 5	3	7	3	2	15	53.3	6	21.9	12	3	1	2	7.4	7.8	8	62	80
sacha	6/48	5/ 5	3	4	6	2	15	55.6	7	27.9	12	3		3	7.3	9.8	8	70	80
palla	10/52	5/ 5	3	3	9	6	20	53.5	7	24.4	17	3	1	2	6.8	7.8	8	58	85
vanezza	7/64	5/ 5	3	3	7	3	17	53.7	6	26.1	15	2		2	7.3	8.7	8	62	88.2

①分母は選抜対象とした株数

②定植後の日数

③下物のうちガク割れ程度の軽いものをGA、ひどいものをGBとした。

④上物率は切花品質の上、中のものの率とした。

別添エ カネーシミン 各品種の月別販売数と直営比率 (参考資料) 1988年

品種	1月		2月		3月		4月		5月		6月	
	販売数	直営比率 %	販売数	直営比率 %	販売数	直営比率 %	販売数	直営比率 %	販売数	直営比率 %	販売数	直営比率 %
SCANIA	192	117 60.9	144	87 46.5	48	25 52.0	0	0 0.0	48	2 4.1	96	43 44.7
WILLIAM SIM	48	29 60.4	48	29 60.4	48	27 56.2	48	22 45.8	48	7 14.1	96	47 48.9
WHITE SIM	144	64 44.4	144	79 54.8	48	23 47.9	192	116 60.4	96	28 39.5	96	40 41.6
SUPER WHITE	48	23 47.9	48	27 56.2	0	0 0.0	48	32 32.4	0	0 0.0	96	45 46.8
ATLANTIS	96	41 42.7	144	93 64.5	96	79 82.3	48	29 60.4	48	6 12.5	96	61 63.5
LE REVE	144	57 39.5	192	122 63.5	48	38 79.1	96	65 67.7	48	22 45.8	48	20 41.6
NORA	144	53 36.8	144	83 57.6	96	77 80.2	48	33 68.7	48	14 29.1	48	15 31.2
ARTHUR SIM	48	29 60.4	96	56 58.3	0	0 0.0	48	37 77.0	48	9 18.7	48	24 50.0
SACHA	48	12 25.0	48	23 47.9	48	25 52.0	48	18 37.5	96	0 0.0	96	0 0.0
PALLA	48	11 22.9	0	0 0.0	288	0 0.0	192	0 0.0	96	0 0.0	96	0 0.0
VANESSA	96	42 43.7	96	37 38.5	48	32 66.6	48	42 87.5	96	40 41.6	0	0 0.0

品種	7月		8月		9月		10月		11月		12月	
	販売数	直営比率 %	販売数	直営比率 %	販売数	直営比率 %	販売数	直営比率 %	販売数	直営比率 %	販売数	直営比率 %
SCANIA	0	0 0.0	144	58 40.2	48	21 43.7	192	93 48.4	144	87 60.4	48	17 35.4
WILLIAM SIM	48	23 47.9	96	37 38.5	0	0 0.0	48	20 41.6	96	33 34.3	96	31 32.2
WHITE SIM	0	0 0.0	96	51 53.1	48	17 35.4	96	53 55.2	96	20 20.8	48	15 31.2
SUPER WHITE	0	0 0.0	96	26 27.0	48	15 31.2	96	70 72.9	96	51 53.1	48	43 89.5
ATLANTIS	48	27 56.2	96	66 68.7	96	35 36.4	96	67 69.7	48	37 77.0	48	31 64.5
LE REVE	96	75 78.1	144	97 60.4	48	28 58.3	144	78 54.1	96	77 80.2	48	45 93.7
NORA	48	11 22.9	144	81 56.2	48	13 27.0	96	54 56.2	96	32 33.3	96	59 61.4
ARTHUR SIM	48	39 81.2	96	55 57.2	48	13 27.0	48	33 68.7	144	62 43.0	48	26 54.1
SACHA	48	0 0.0	48	5 10.4	143	0 0.0	48	19 39.5	144	20 13.8	96	15 15.6
PALLA	144	0 0.0	144	0 0.0	192	5 2.6	48	2 4.1	192	4 2.0	96	28 29.1
VANESSA	48	17 35.4	96	45 46.8	96	35 36.4	48	27 56.2	96	57 59.3	48	40 83.3

研究目標 キクの栽培技術改善
 大課題 優良苗育成に関する試験
 小課題 新品種の導入および現地適応品種選抜試験
 試験項目 スプレーギクの品種適応試験

アルゼンティン園芸総合試験場
 担当者：佐々木、脇田、長町、稲葉

1988 年度

目的	アルゼンティン国ではキク栽培が行なわれているがスプレーギクの生産は、いまだ多くない。しかし、世界的にはよく普及し、なお、増加傾向にあり、当国でも近い将来普及するものと思われる。このため亜国に適する品種の選抜を行ない栽培方法を確立する目的にて本試験を実施した。					
試験方法	伯国サンパウロ市近郊から収集した下記の品種を供試し 秋作（無加温ハウス栽培、露地栽培）及び春作（無加温ハウス栽培）における適品種選抜を行なった。各栽培の作業は次の通りであった。					
	作型	定植場所	挿し芽	定植	摘芯	電照期間
	1. 秋作	無加温ハウス	88.12.20	89.1.5	89.1.19	—
		露地	89.1.19	89.2.17	89.3.3	—
	2. 春作	無加温ハウス	89.4.25	89.5.15	89.5.29	89.5-29 89.7-31
供試品種						
CREAM IMPALA	BRONZE PON PON	MIUDO BRANCO	REFOUR	IMPALA		
BIJOUX GEEL	MARGARIDA TIJOLO	AMARELINO	TWILIGHT	TINSEL		
WHITE IMPALA	WESTLAND YELLOW	REFOUR YELLOW	DARK PINK	FUSA		
LILAC MARBLE	MIUDO VERMELHO	IMPROVT PENNY LANE	乙女桜	HALEQUIN		
RED MARBLE	YELLOW PON PON	WHITE MARBLE	BIJOUX	ECHOS		
PENNY LANE	PINK PON PON	TIJOLINHO	REPIN	KLONDIKE		
BRONZE MARBLE	YELLOW TINSEL	GOLDEN BRONZE	DOLAROID REPIN			
WALL STREET	GRESPO MARGARIDA	COTTON BALL	HALEQUIN WHITE			
SALMON IMPALA	DARK FLAMENCO	東の光				

試験結果	切花スプレーギクとして今後有望と思われる品種。
<p>1. 秋作（ハウス露地）の優良品種</p> <p>TINSEL, BIJOUX, BIJOUX GEEL, AMARELINHO, MIUDO BRANCO, WESTLAND YELLOW, LILAC MARBLE, MIUDO VERMELHO, IMPROVT PENNY LANE, COTTON BALL, WALL STREET, PENNY LANE, ECHOS, PINK PON PON, YELLOW PON PON.</p> <p>2. 春作（ハウス）の優良品種</p> <p>TINSEL, BIJOUX GEEL, MIUDO BRANCO, MIUDO VERMELHO, WALL STREET, PINK PON PON, YELLOW PON PON</p> <p>3. 冬作 - 春作共通した優良品種</p> <p>TINSEL, BIJOUX GEEL, MIUDO BRANCO, MIUDO VERMELHO, WALL STREET, PINK PON PON, YELLOW PON PON</p> <p>4. 春作の試験結果無加温ハウスでは正常な花芽分化発達が見られなかった品種。</p> <p>BIJOUX, AMARALINHO, LILAC MARBLE, COTTON BALL, GOLDEN STAR, PENNY LANE, TIJOLINHO, RED MARBLE</p>	
試験結果の 具体的データ	別添 3. 4. 5 のとおり

別添子(1) 具体的データー 秋作栽培(無加温ハウス栽培)

	品種名	平均開花日	莖長	花径	花色	柳芽	スクラ質	莖	その他
1	CREAM IMPALA	1989.4.15	65	7	黄		下	中	
2	BRONZE PON PON	1989.4.9	95	9	赤銅色		中	太	
3	TWILIGHT	1989.4.8	55	6	淡紫		中	太	
4	TINSEL	1989.4.12	100	7.5	白		上	太	舌状花弁に切れ目が入っている。中型花であるがスプレー型。
5	REFOUR	1989.4.16	85	8.5	白		下	太	
6	FUSA	1989.4.16	115	9	濃紫赤		下	-	
7	BIJOUX	1989.4.19	85	4.5	淡紫		上	細	残して良い品種スプレー向き。蕾が揃っている。
8	IMPALA	1989.4.25	113	7.5	ピンク		下	太	
9	BIJOUX GEEL	1989.4.25	85	4	銅色		上	細	残して良い品種スプレー向き。
10	AMARELINHO	1989.4.11	65	3	黄		上	細	スプレー向き。
11	REPIN	1989.4.23	105	8	ピンク		下	中	
12	WHITE IMPALA	1989.4.28	95	8	淡黄		下	太	
13	MARGARIDA TIJOLO	1989.4.24	102	6.5	橙		下	太	
14	DARK PINK	1989.4.24	75	7.5	濃紫		中	太	
15	MUUDO BRANCO	1989.4.5	73	4	白		上	細	コスモス型だが花はスプレー向き。 せん細な美しい花。
16	WESTLAND YELLOW	1989.4.24	105	9	黄		上	中	
17	REFOUR YELLOW	1989.4.16	73	8.5	黄		中	太	花が良いスプレー型。
18	LILAC MARBLE	1989.4.16	96	6	紫		上	太	スプレー型。
19	MUUDO VERMELHO	1989.4.16	69	3	濃朱		上	細	スプレー型。
20	IMPROVY PENNY LANE	1989.4.18	55	4.5	ピンク		上	細	

別添 5 - (2)

	品種名	平均開花日	莖長	花径	花色	柳芽	スカ-質	莖	その他
21	CRESCO MARGARIDA	1989. 4. 28	100	8	淡黄	+	中	太	花色に特徴がない。
22	COTTON BALL	1989. 4. 24	75	3.5	白		上	中	白のボンボン。花色が良い。
23	DORALOID REPIN	1989. 4. 24	80	8	ピンク		下	細太	傷つき易い。花弁に重畳感がない。
24	TIJOLINHO	1989. 4. 10	77	4	橙		下	太	スプレー型。
25	WALL STREET	1989. 4. 23	85	5.5	紫		上	細	
26	GOLDEN BRONZE	1989. 4. 27	95	7	加ズ		下	太	
27	HALEKJIN	1989. 4. 24	80	6.5	淡紫		下	中	色が淡紫に、白がかったいるため特色のない色。
28	乙女桜	1989. 4. 28	60	6	白		下	太	
29	PENNY LANE	1989. 4. 27	55	6	白		上	細	花が小さいが派山咲く。スプレー型。
30	KLONDIKE	1989. 4. 24	70	6.5	赤		中	太	花色はいいが舌状花少なく、ボリユーム感無し。
31	RED MARBLES	1989. 4. 25	80	8	濃紅		下	太	
32	SALMON IMPALA	1989. 4. 28	115	7	ピンク	+	下	太	色が明りよらない。
33	東の光	1989. 4. 25	105	8	白	+	下	中	花は良いがスプレー型でない。
34	GOLDEN STAR	1989. 4. 24	75	8.5	黄		中	-	頂花周辺に花が葉中しすぎる。
35	ECHOS	1989. 4. 26	90	6	白	+	上	-	管物であるがスプレー型。
36	PINK PON PON	1989. 4. 24	60	5	ピンク		上	中	いい花。花の色もよい。
37	WHITE MARBLE	1989. 4. 24	75	6.5	白		中	太	
38	DARK FLAMENCO	1989. 4. 23	75	9	濃朱		中	太	花も大きく、花の位置が葉中している。
39	YELLOW PON PON	1989. 4. 29	80	4	黄		上	中	黄色も美しいスプレー型。
40	HALEKJIM WHITE	1989. 4. 24	80	8	淡ピンク		下	中	草丈が高い。重畳感が無い。

別添メー(1) 具体的データー 秋作栽培(露地栽培)

	品種名	平均開花日	莖長	花径	花色	柳芽	スプレー質	莖	その他
1	CREAM IMPALA	1989.4.25	45	7	黄		下	中	
2	BRONZE PON PON	1989.4.25	60	9	赤銅色		中	太	
3	TWILIGHT	1989.4.23	30	6	淡紫		中	太	
4	TINSEL	1989.4.25	65	7.5	白		上	太	
5	REFOUR	1989.4.25	44	8.5	白		下	太	
6	FUSA	1989.4.25	60	9.0	濃紫赤		中	太	花が大きすぎるのでスプレーとしては?である。 スプレーとして可。
7	BIJOUX	1989.4.25	45	5.5	淡紫		上	細	
8	IMPALA	1989.5.03	60	8.0	ピンク		下	太	
9	BIJOUX GEEL	1989.4.25	55	5.5	赤銅色		上	細	管物鎌舌状花スプレー用。
10	AMARELINHO	1989.4.24	42	3.5	黄		上	細	
11	REPIN	1989.4.24	67	8.0	ピンク		下	中	
12	WHITE IMPALA	1989.4.27	63	7.0	淡黄		下	太	
13	DARK PINK	1989.4.26	60	7.5	濃桃		中	太	色はいいがスプレーとしては花が大型過ぎる。 スプレー向き。
14	MIUDO BRANCO	1989.4.24	45	4.0	白		上	細	
15	WESTLAND YELLOW	1989.4.26	75	8.5	黄		上	中	
16	REFOUR YELLOW	1989.4.23	47	8.5	黄		中	太	舌状花少ない。重量感が無い。
17	LILAC MARBLE	1989.4.24	55	6.0	紫		上	太	
18	MIUDO VERMELHO	1989.4.24	45	4.0	濃紅		上	細	
19	IMPROVT PENNY LANE	1989.4.25	45	4.5	淡紫		上	細	
20	CRESPO MARGARIDA	1989.4.29	65	7.5	淡黄		中	太	

別添表 - (2)

	品種名	平均開花日	莖長	花径	花色	柳芽	刈り	莖	その他
21	COTTON BALL	1989. 4. 23	53	3.5	白		上	中	スプレー型に良い。ポンポン純白がよい。 重畳感がない。
22	DORALOID REPIN	1989. 4. 25	65	8.0	ピンク		下	太	
23	TIJOLINHO	1989. 4. 25	75	4.0	橙		下	太	
24	WALL STREET	1989. 4. 25	48	5.5	ピンク		上	細	
25	GOLDEN BRONZE	1989. 4. 26	90	7.0	赤銅色		下	太	
26	HALEKJIN	1989. 4. 25	60	8.0	淡紫		下	中	重畳感無し。
27	乙女桜	1989. 4. 26	55	6.0	白		下	太	スプレー型では無い。
28	PENNY LANE	1989. 4. 25	38	6.0	淡ピンク		上	細	
29	KLONDIKE	1989. 4. 26	70	6.5	濃赤		下	太	
30	RED MARBLE	1989. 4. 25	65	8.0	濃紅		下	太	ポリユーム感無し。 色に魅力が無い。
31	SALMON IMPALA	1989. 4. 26	100	7.0	淡朱		下	太	
32	桜の光	1989. 4. 25	58	8.0	白		下	太	
33	GOLDEN STAR	1989. 4. 26	53		黄		中		
34	ECHOS	1989. 4. 26	60		白		上		
35	PINK PON PON	1989. 4. 25	60	6.0	ピンク		上	中	スプレー向き。花色長く、花に重畳感有り。 舌状花やや黄味を帯びている。純白であればよいが。
36	WHITE MARBLE	1989. 4. 26	63	8.5	淡黄		中	太	
37	DARK FLAMENCO	1989. 4. 25	65	9.5	濃朱		中	太	
38	YELLOW PON PON	1989. 4. 28	70	4.0	黄		上	中	
39	YELLOW TINSEL	1989. 4. 24	65	8.0	黄		中		
40	HALEKJIN WHITE	1989. 4. 25	60	8.0	白紫		下	中	舌状花少なく、重畳感無し。
41	BRONZE MARBLE	1989. 4. 26	55				下	太	

別添 6 - (1) 具体的データ - 春作栽培 (無加温ハウス栽培)

	品種名	発露	平均開花日	莖長	花径	花色	柳芽	スル-黄	莖	その他
1	CREAM IMPALA		1989.11.7	63	6	黄	ヤ	中	中	開花が揃わない。頂花の側枝の花が一語に咲かない。
2	Bronze Pon Pon		1989.11.9	126	9	赤銅色		太	太	開花日が大中に遅れ、その上一斉に咲かない。
3	TWILIGHT	9-15	1989.11.7	62	7	ピンク	ヤ	太	太	草丈が伸びない。開花日が遅れる。
4	TINSEL	9-20	1989.10.20	105.5	8	白		中	中	花弁先切れ、ポリフェーム感がある。花が頂花周辺に集中する。
5	REFOUR		1989.11.23	75	7.5	黄		太	太	開花日遅遅れ、未開花もあった。重量感無し。
6	BIJOUX	-	1989.11.24	96	-	-	ヤ	細	細	花芽形成無し。
7	IMPALA	9-20	1989.10.20	107	6.4	ピンク		太	太	草丈、開花日一斉に揃わない。
8	BIJOUX GEEL		1989.10.11	88	7	赤銅色		細	細	冬作では最も早く開花。管物。特徴がある花。
9	AMARELINHO		1989.11.27	73	-	-	ヤ	細	細	花芽形式無し。
10	REPIN	9-20	1989.10.25	85	8.5	ピンク		太	太	草丈が揃わない。花は美しいがポリフェームが無い。
11	WHITE IMPALA		1989.11.6	78	7.5	白		太	太	舌状花数 37 枚 花芯 黄色
12	MARGARIDA TIJOLÓ	9-10	1989.11.14	85	5.5	淡赤銅	ヤ	中	中	草丈不揃い。開花日が遅い。重量感が無い。
13	DARK PINK	9-10	1989.11.3	85	8.5	濃ピンク		太	太	開花日が遅れ、一斉開花しない。
14	MUDO BRANCO		1989.11.13	109	4	白		細	細	花は順次咲く。花が多ためスプレー向き。
15	WESTLAND YELLOW		1989.11.13	108	11	黄		太	太	管物型舌状花。開花日が遅く、開花が揃わない。
16	LILAC MARBLE	-	1989.11.27	85	-	-	ヤ	太	太	花芽形成無し。ヤナギ芽? 回発生。
17	MUDO VERMELHO	9-20	1989.10.26	96	4.5	赤		細	細	小型の花数が多い。色も良い。
18	IMPROV'T PENNY LANE				-	-		-	-	
19	CRESPO MARGARIDA	9-15	1989.10.12	97	7.	淡黄		太	太	舌状花 31~32 枚。花色に特徴なし。
20	COTTON BALL	-	1989.11.24	94	-	白		太	太	花芽の形成は 1 株のみ。

別添 5 - (2)

具体的データ

春作栽培 (無加温ハウス栽培)

	品種名	発露	平均開花日	莖長	花径	花色	柳 芽	スレ	莖	その他
21	DORALOID REFIN	9-20	1989.10.25	109	8.5	ピンク		中	太	花の位置が頂花の高さに集中しているが、花の質は不良。
22	TIJOLINHO	9-20	1989.11.24	122	-	-		下	太	花芽形成なし。
23	WALL STREET	9-30	1989.11.6	109	5	紫		上	細	スプレー型。開花日不斉。
24	GOLDEN BRONZE	9-20	1989.10.25	100	8.5	黄銅		中	太	花弁に重量感なし。
25	HALEKJIN		1989.11.13	97.5	6	淡紫		下	中	花弁に重量感なし。開花日が遅く魅力に欠ける。開花日不斉。
26	乙女桜		1989.11.24	102	5.5	白		下	太	開花日不斉。花は良質だが、スプレーにするには頂花の摘芯が必要。
27	PENNY LANE		1989.11.27	102	-	-		下	細	花芽形成なし。
28	KLONDIKE	9-20	1989.10.25	89	6.5	濃赤	ヤ	中	太	開花揃わない。舌状花があせてしまう。草丈不揃。
29	RED MARBLE		1989.11.24	94	-	-		下	太	花芽形成なし。
20	SALMON IMPALA	9-20	1989.10.26	107	7	淡ピンク		中	太	花に重量感がない。開花が揃わない。
31	東の光	9-15	1989.11.3	65	9.5	白		下	中	草丈低い。花質は良い。
32	GOLDEN STAR			89	-	-	ヤ	下	中	花芽形成なし。
33	ECHOS		1989.11.23	64	5.5	白		中	細	スプレー型だが、開花日遅れる。冬型ではない。
34	PINK PON PON	9-20	1989.10.27	93	6	ピンク	ヤ	上	中	スプレー型の良花。ボンボン型。
35	WHITE MARBLE		1989.11.6	102	7.5	白		中	中	側枝がよく伸びている。開花は遅い。重量感なし。
36	DARK FLAMENCO	9-15	1989.10.26	108	10	朱		下	太	草丈が長いので倒れる。側枝の花は開花が遅れる。
37	YELLOW PON PON		1989.11.7	102	5	黄		上	細	重量感もあり、スプレー型。開花は遅い。
38	HALEKJIN WHITE		1989.11.27	130	6.5	白		下	中	開花が遅れる。また、11/27 にも未開花の株が多い。

研究目標 その他の花卉栽培技術改善
 大課題 宿根カスミ草栽培技術改善
 小課題 栽培及び栽培型に関する試験
 試験項目 冬作における摘芯方法

アルゼンティン園芸総合試験場
 担当者 嘉味田、佐々木、稲葉、小西

1988年度

目的	<p>秋のカスミソウは生長活性が低くてロゼット化しやすいが、摘芯の方法によってはロゼット化を防ぐことができる様に観察している。すなわち、春～夏作では低い節位の側芽を生長させるのが良いが、秋～冬作では低節位の芽はロゼット化しやすく、植付け後展開し旺盛に生長している葉のついている節の芽はロゼット化しにくい様である。この試験ではこれを確認することを目的とした。</p>																														
試験方法	<p>供試品種 プリストル フェアリー 処理 摘芯位置 下から3～4節、5～6節、7～8節、9節。 各区20株を供試した(9節摘芯区のみ10株とした。)挿し芽は2月23日、定植は3月15日、摘芯は4月14日とした。</p>																														
試験結果	<p>通常の低位置摘芯でもロゼット化せず良く伸長する株が多かった。3～4節摘芯、5～6節摘芯及び7～8節摘芯の各区では、ロゼット株率に差はなかった。しかし9節摘芯区ではロゼット株は1株のみと少なかった。摘芯節位が高くなる程開花時期がやや早くなり、切花が短く、茎基部も細くなり切花の質が低下する傾向が見られた。</p>																														
主要成果の 具体的データ-	<p style="text-align: center;">摘芯節位とロゼット化及び切花の品質との関係</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">処理区</th> <th style="text-align: center;">ロゼット化 (%)</th> <th style="text-align: center;">株当り 切花本数</th> <th style="text-align: center;">切花長 (cm)</th> <th style="text-align: center;">切花重 (gr)</th> <th style="text-align: center;">茎基部の直径 (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3～4節</td> <td style="text-align: center;">45</td> <td style="text-align: center;">1.6</td> <td style="text-align: center;">91.9</td> <td style="text-align: center;">82.0</td> <td style="text-align: center;">6.5</td> </tr> <tr> <td>5～6節</td> <td style="text-align: center;">55</td> <td style="text-align: center;">2.6</td> <td style="text-align: center;">89.4</td> <td style="text-align: center;">69.7</td> <td style="text-align: center;">6.1</td> </tr> <tr> <td>7～8節</td> <td style="text-align: center;">35</td> <td style="text-align: center;">2.8</td> <td style="text-align: center;">79.9</td> <td style="text-align: center;">56.1</td> <td style="text-align: center;">5.0</td> </tr> <tr> <td>9節</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">1.5</td> <td style="text-align: center;">80.8</td> <td style="text-align: center;">40.2</td> <td style="text-align: center;">4.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>切花は8月4日～9月11日に行なった。</p>	処理区	ロゼット化 (%)	株当り 切花本数	切花長 (cm)	切花重 (gr)	茎基部の直径 (mm)	3～4節	45	1.6	91.9	82.0	6.5	5～6節	55	2.6	89.4	69.7	6.1	7～8節	35	2.8	79.9	56.1	5.0	9節	10	1.5	80.8	40.2	4.8
処理区	ロゼット化 (%)	株当り 切花本数	切花長 (cm)	切花重 (gr)	茎基部の直径 (mm)																										
3～4節	45	1.6	91.9	82.0	6.5																										
5～6節	55	2.6	89.4	69.7	6.1																										
7～8節	35	2.8	79.9	56.1	5.0																										
9節	10	1.5	80.8	40.2	4.8																										

研究目標 その他の花卉栽培技術改善
 大課題 宿根カスミ草の栽培技術改善
 小課題 栽培及び栽培型に関する試験
 試験項目 12月開花のための切り戻し時期試験

アルゼンティン園芸総合試験場
 担当者 嘉味田、稲葉、小西

1988年度

目的	アルゼンティンでは、11月出荷は最も栽培が容易であり品質は良いが市場では量が多くて安値である。12月出荷であれば需要も多くなり有利である。本試験では9月の切花株の2度切り栽培でクリスマス出荷を目的として切り戻し時期を検討した。								
試験方法	<p>処理 9月切花株の作業歴は次の通りであった。挿し芽 2月23日、定植 3月15日、摘芯 4月14日、切花 9月11日。</p> <p>それらを 1) 9月15日、2) 9月30日、3) 10月15日の3区に分けて切り戻し開花時期を調査した。各区約20株を供試した。</p>								
試験結果	9月15日切り戻しでは開花時期は11月下旬となり、9月30日では12月上旬、10月15日で12月下旬となった。クリスマス出荷のためには10月上中旬の切り戻しが適当と思われる。切花品質については各切り戻し時期のものに差が見られなかった。								
主要成果の 具体的データ	<p>切り戻し時期と開花時期の関係</p> <table border="1" data-bbox="469 1458 1241 1693"> <thead> <tr> <th>切り戻し日</th> <th>開花時期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9月15日</td> <td>11月24日 ~ 12月05日</td> </tr> <tr> <td>9月30日</td> <td>12月06日 ~ 12月13日</td> </tr> <tr> <td>10月15日</td> <td>12月22日 ~ 12月22日</td> </tr> </tbody> </table>	切り戻し日	開花時期	9月15日	11月24日 ~ 12月05日	9月30日	12月06日 ~ 12月13日	10月15日	12月22日 ~ 12月22日
切り戻し日	開花時期								
9月15日	11月24日 ~ 12月05日								
9月30日	12月06日 ~ 12月13日								
10月15日	12月22日 ~ 12月22日								

研究目標 その他の花卉栽培技術改善
 大課題 宿根カスミ草の栽培技術改善
 小課題 栽培及び栽培型に関する試験
 試験項目 挿し芽時期及び切り戻し時期と開花時期の関係

アルゼンティン園芸総合試験場
 担当者 嘉味田、稲葉、小西

1988年度

目的	宿根カスミ草は挿し芽時期や切り戻し時期を変えることによって1年中切花が生産できるが、計画的に切花生産をするためには、いつ挿し芽（または、株の切り戻しをすれば、いつ開花するかを知る必要がある。本試験では、各月に挿し芽してそれらの開花時期と切花の品質を調査し、さらに、切り戻し後の開花についても同様の調査を行なった。				
試験方法	処理 4月から10月までを除く各月に挿し芽した。それらをさらに切花後切り戻した。試験は現在続行中であり、ここではすでにに切花の終了した各区のみについて報告する。挿し芽、定植、摘芯、切り戻しの日付は次の通りであった。				
	挿し芽 (月日)	定植 (月日)	摘芯 (月日)	第1回 切り戻し (月日)	第2回 切り戻し (月日)
1	12-16	1-16	1-26	4- 1	8-28
2	1- 9	2- 1	2-10	7-20	11-27
3	2-22	3-14	3-25	9-29	--- --
4	3-25	4-14	4-24	10-24	--- --
5	8- 3	9-15	9-25	--- --	--- --
6	9-15	10-15	10-25	--- --	--- --
7	10-15	11-15	11-27	--- --	--- --
8	11-15	12-15	12-26	--- --	--- --
各月の定植株数は約40株とし、摘芯後または切り戻し後に各株シュート数を4本に整枝した。					

試験結果

第1図に各区の開花時期を、第1表に切花の品質を示した。

主要成果の
具体的データ

開花時期及び切花の品質

処理 番号	摘芯または 切り戻し時期 (月日)	切花日		株当り 切花本数	切花長 (cm)	切花重 (g)	茎基部 の直径 (mm)
		開始 (月日)	終了 (月日)				
1	1-26	3- 3~	3-20*	2.3	54.6	72.9	7.2
	4- 1	6-13~	8-15	2.8	104.8	223.3	7.6
	8-28	11-23~	11-27	3.2	102.4	152.8	7.2
2	2-10	4- 7~	5-23	2.8	95.9	182.5	8.2
	7-20	10-27~	11-17	2.1	96.2	183.2	7.8
3	3-25	8- 3~	9-14	2.2	107.4	128.9	7.2
	9-29	12- 6~	12-18	4.7	94.4	113.0	7.0
4	4-24	10- 5~	10-19	1.6	101.1	346.2	9.0
	10-24	12-27~	1- 4	3.3	8.04	70.1	6.6
5	9-25	11-29~	12-22	3.2	85.1	86.6	6.6
6	10-25	12-22~	12-27	3.1	83.4	65.4	6.9

*ダンゴ花が着生した切花が48%あった。

月 処理番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	○x		▨	⊙		▨	▨	▨	⊙			▨
2		x		▨	▨	⊙	⊙				▨	⊙
3			○x					▨	▨	⊙		▨
4				○x						□	⊙	▨
5									○x			▨
6										○x		▨

第1回開花期

○定植

x摘芯

⊙切り戻し

開花

研究目標 その他の花卉栽培技術改善
 大課題 フリーズアの栽培技術改善
 小課題 栽培及び栽培型に関する試験
 試験項目 フリーズアの播種期及び発芽の早晚と切り花ならびに球根の品質

アルゼンティン園芸総合試験場
 担当者 生駒、稲葉、小西

1988年度

目 的	フリーズア種子は、夏の高温のもとでは発芽しない。しかし、秋まきでは当年に切り花し、促成用に使用できる十分な大きさの球根を収穫するためには遅すぎる。本試験では、夏季に発芽適温で催芽し播種時期を早めて、切り花及び球根肥大に対する効果を検討する。																																
試験方法	<p>処理 催芽時期を次のようにした。</p> <p>1) 1988年12月17日、 2) 1989年1月16日、 3) 1989年2月15日、 4) 1989年3月17日。</p> <p>催芽温度は 18 ~ 20 °C とし、発根後育苗箱に播種し、芽長約 10cm 時に定植した。なお、同時に催芽した種子を発芽の早晚により 2 区に分けた。各区の作業歴は以下のようなものであった。無加温ハウスで栽培し 6 月 7 日に 2 重カーテンを設置した。供試株数は、1 区 42 とした。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>処 理 番 号</th> <th>催 芽 (月・日)</th> <th>播 種 (月・日)</th> <th>定 植 (月・日)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">1.</td> <td>A</td> <td>12.26</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>12.17</td> <td>1.16</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2.</td> <td>A</td> <td>1.16</td> <td>1.25</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>---</td> <td>1.27</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">3.</td> <td>A</td> <td>2.27</td> <td>3.13</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>2.15</td> <td>3.23</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">4.</td> <td>A</td> <td>3.30</td> <td>4.15</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>3.17</td> <td>4.21</td> </tr> </tbody> </table> <p>* 催芽後直接定植</p>	処 理 番 号	催 芽 (月・日)	播 種 (月・日)	定 植 (月・日)	1.	A	12.26	1.12	B	12.17	1.16	2.	A	1.16	1.25	B	---	1.27	3.	A	2.27	3.13	B	2.15	3.23	4.	A	3.30	4.15	B	3.17	4.21
処 理 番 号	催 芽 (月・日)	播 種 (月・日)	定 植 (月・日)																														
1.	A	12.26	1.12																														
	B	12.17	1.16																														
2.	A	1.16	1.25																														
	B	---	1.27																														
3.	A	2.27	3.13																														
	B	2.15	3.23																														
4.	A	3.30	4.15																														
	B	3.17	4.21																														

調査結果

花芽分化の時期は、5月中旬であった。全ての区で1番花は、100%開花した。催芽が早いほど早く開花した。切り花の品質は12月17日及び1月16日催芽で良く、3月17日催芽では短く花数も少なくなった(第1表)。発芽の早晚によって花色の分布、切り花の質にとくに違いは認められなかった。

催芽時期の早いほど本葉数が多かった。主球茎の肥大は、催芽12月17日、1月16日、2月15日の各区では、とくに変わらず促成用に十分使用できると思われる(第2表)。催芽3月17日区ではやや小さかったが同様に使用できる(データなし)。

以上より、2月中旬までに催芽して栽培すれば切花、球根生産とも十分な結果が期待できる。

主要成果
具体的データ

第1表 フリージアの播種時期と開花

処理	花 色 (%)					株当り 切花数	1 番 花			2 番 花			
	赤	桃	黄	紫	白		開花日 (月日)	切花長 (cm)	開花数	開花日 (月日)	切花長 (cm)	開花数	
1.	A	0	18	28	51	3	4.5	8.22	26	12	8.30	23	9
	B	3	22	54	19	3	3.9	8.23	27	11	9.4	23	9
2.	A	5	19	45	31	0	4.2	8.26	28	11	9.4	24	8
	B	7	5	40	45	2	4.5	8.29	27	11	9.8	23	9
3.	A	0	17	42	39	2	4.5	9.5	26	10	9.14	25	8
	B	0	22	41	36	0	4.1	9.7	25	10	9.18	24	8
4.	A	0	14	40	38	7	3.3	9.24	22	9	10.5	19	8
	B	2	24	31	38	5	2.9	9.30	20	8	10.10	18	7

第2表 フリージアの播種時期と球根の肥大

処理	葉数	主球茎の 重さ(g)	木子		
			数	重さ(g)	
1.	A	12.3	16.5	20	28.4
	B	12.2	13.6	22	31.0
2.	A	11.5	13.2	15	18.5
	B	11.7	13.9	14	17.3
3.	A	9.8	15.7	16	21.3
	B	9.3	13.1	15	17.1
4.	A	8.8	---	---	---
	B	8.3	---	---	---

*調査せず

研究目標 その他の花卉栽培技術改善
 大課題 トルコギキョウの栽培技術改善
 小課題 栽培及び栽培型に関する試験
 試験項目 冬切り栽培の作型開発試験

アルゼンティン園芸総合試験場
 担当者 嘉味田、脇田、稲葉、小西

1988年度

目的	トルコギキョウを夏まきすると開花までに1年近くかかる。それは播種直後の高温のためにロゼット化し、そのロゼット打破に冬の低温を必要とするからである。この試験では、夏に播種し育苗期を低温で管理してロゼット化を防止し、冬に開花させる作型の開発を検討する。										
試験方法	<p>供試品種 都紫、都白、都桃。 1989年2月1日に播種し、その後つぎの各期間の夜温（17時～10時の15時間）を17℃とする区を設けた。処理期の昼間（9時間）はガラス室の自然温度とした。処理後は、ガラス室内に置いた。4月4日定植し（12×12cm）、冬季は、夜温13℃に管理した。各品種各区20個体について開花時期及び切花の品質等を調査した。</p> <p>処理日数</p> <table data-bbox="523 1048 1023 1227"> <tr> <td>0日</td> <td>（初めから自然温度の対照区）</td> </tr> <tr> <td>20日</td> <td>（2月21日まで）</td> </tr> <tr> <td>30日</td> <td>（3月3日まで）</td> </tr> <tr> <td>40日</td> <td>（3月13日まで）</td> </tr> <tr> <td>50日</td> <td>（3月23日まで）</td> </tr> </table>	0日	（初めから自然温度の対照区）	20日	（2月21日まで）	30日	（3月3日まで）	40日	（3月13日まで）	50日	（3月23日まで）
0日	（初めから自然温度の対照区）										
20日	（2月21日まで）										
30日	（3月3日まで）										
40日	（3月13日まで）										
50日	（3月23日まで）										
試験結果	播種後夜間低温としなかった区は3品種とも全てロゼットとなった。都紫は播種後20日間の低温管理でもロゼット化せずよく伸長した。都白及び都桃でも30日以上低温管理とすればロゼット化が回避できることが明らかとなった。冬季開花を期待したが、開花は早い株で10月、遅い株では12月下旬となった。切花長は100cmを越え、節数が30を越える株も多く、明らかに花芽分化の遅れを示していた。冬季開花を図るため引き続き播種時期、冬季とくに花芽分化時期の管理適温等の検討を要する										

主要成果の
具体的データ

開花時期及び切花の品質等

品種	低温処 理日数	ロゼット化 率 (%)	切花日		切花時期の 開花花数	長さ (cm)	切花	
			開始 (月日)	終了 (月日)			節数	重さ (g)
都紫	0	100	---	---	0	0	0	0
	20	0	10- 9~	12-21	3.6	87.0	14.7	60.2
	30	0	10-19~	12-21	2.7	96.9	21.4	75.0
	40	0	10-19~	12- 5	2.6	93.7	20.8	73.5
	50	0	10-30~	12- 5	1.9	88.2	20.2	69.9
都白	0	100	---	---	0	0	0	0
	20	100	---	---	0	0	0	0
	30	0	10- 9~	12-21	3.7	64.2	12.9	56.8
	40	0	10-23~	12-12	3.3	80.2	20.6	73.5
	50	0	11-23~	12- 5	5.0	78.3	19.5	78.6
都桃	0	100	---	---	0	0	0	0
	20	100	---	---	0	0	0	0
	30	0	11-23~	12-21	3.0	102.7	23.8	87.0
	40	0	11-17~	12-21	2.8	100.6	24.0	88.9
	50	0	11-17~	12-12	2.9	97.1	23.4	82.9

研究目標	その他の花卉栽培技術改善
大課題	トルコギキョウの栽培改善試験
小課題	新品種導入適応試験
試験項目	品種比較試験

アルゼンティン園芸総合試験場
担当者 嘉味田、長町、稲葉、小西

1988年度

目的	トルコギキョウの基本的な作型は秋まき栽培と春まき栽培であるが、植物の生育の様相は秋まきと春まきとで大きく異なる。したがって用いる品種も作型に応じて変えるべきだと思われるが、現在はその区別がされていない。本試験では、春やや遅くまく場合の適当な品種を選抜することを目的とした。
試験方法	<p>供試品種 若紫、紫の峰、紫の誉、都紫、都白、都桃、ミス ピンキー、ミス アルバ、ミス ライラック。各品種96株を供試した。</p> <p>播種 1988年10月19日</p> <p>定植 1988年12月20日</p> <p>調査項目 切花日(4花が開花した日)、開花時の節数、切花の長さ、重さ、ロゼット株率。</p>
試験結果	この時期の播種では供試した全ての品種で良質な切花を生産するのは難しいと思われた。都紫の品質がもっとも良かったが、切花の長さ40~50cm、切花重も40gr程度であった。トルコギキョウの花芽分化は高温長日で促進される。花芽分化前の栄養生長量を多くするため、さらに播種時期を早めるか温度管理の改善などの必要があると思われる。都桃では70%がロゼット化した。都白でも48%であり1、2の品種を除いて、ロゼットの発生も問題であった。育苗後期の夜温がやや高くなったことが原因と思われるが、この点についても対策が必要である。各品種とも生育はかなり不揃いで、切花期間も30日以上になった。伸長した株もロゼット化の傾向があるものが多かったためであろう。全ての品種で10%前後の履病による株の枯死が見られた病原は <i>Fusarium solani</i> の可能性が高い(ブエノスアイレス州農業試験場の同定による)。切花後の株も同様な症状で多くが枯死した。

主要成果の
具体的データ

品種名	開花日	株当たり 花本数	切花長 (cm)	切花重 (gr)	節数	ロゼット株 (%)	履病枯死 株率 (%)
若紫、	2-3~ 3-14	76	39.9	28.3	5.3	19.2	8.9
紫の峰	2-3~ 3-17	96	31.4	18.8	5.3	2.9	6.3
紫の誉	2-9~ 3-14	62	37.4	20.9	4.9	17.6	9.3
都紫	2-13~ 3-17	57	46.2	38.8	6.4	28.0	10.7
ミス アルバ-	2-10~ 3-14	73	34.1	31.9	7.0	16.7	7.0
ミス ピンキ-	2-20~ 3-27	114	39.9	36.4	6.6	0.9	10.1
ミス ライラック	2-10~ 3-20	76	34.9	40.2	7.5	7.9	8.3
都白	2-15~ 3-27	62	41.9	47.3	6.3	47.5	11.7
都桃	2-22~	-	-	-	-	76.4	-

研究目標	果樹の栽培技術体系の確立
大課題	品種適応試験
小課題	11種類に関する品種適応試験
試験項目	〃

アルゼンティン園芸総合試験場
担当者 伊藤、我藤、高木、脇田、永井

1988年度

目的	アルゼンティン国において今後有望と考えられる11種類の日本からの導入果樹の品種につき、その環境適応性を検討しアルゼンティン国における品質優良で生産性の高い品種を明らかにする。主として樹体生長、果実品質に関して基礎資料を得る。
調査方法	バラデーロ試験圃に植栽中の11種果樹を供試し、その樹体生長、病虫害発生状況、及び樹体の栄養診断を行なった。また、一部結果樹種については果実品質を調査した。
調査結果	<p>(1) ウメ 各品種共に樹体生長は良好であり、“南高”、“鶯宿”については結実が認められた。ただ、春季の強風によって収穫前落果及び主枝、垂主枝の折損がかなり認められるので強固な骨格の樹形にすることが望ましい。果実の大きさ、品質共に幾分標準より劣るがこれは収穫時期が一週間程度早かったと考えられる。</p> <p>(2) モモ 春季の萌芽開花が不揃いで休眠打破が充分でないと考えられた。果実肥大は著しく標準より劣るがこれは葉芽の萌芽が遅延したことと、強風による落葉によって同化器官の不足によるものと考えられた。また、収穫直前の風による落果が著しい。品質的には、糖、酸共に標準に近いが果形が腰高で砂子早生では品種の特性が出なかった。</p> <p>(3) ピワ 結実をした品種もあったが、いずれも無種子あるいは種子数が少なく、果実は極端に小さく商品価値が認められない。これは冬季の寒害による不受精と思われるので寒害対策あるいは生長物質利用が必要と思われる。</p> <p>(4) ブドウ 樹体生長は良好であるが、黒痘病の発生が多く、冬季における薬剤散布が不可欠である。また、夏期の日射が強いため縮果病（日焼け）の発生が多く日除けを兼ねた枝葉の繁茂（副梢の発生）を促す管理が必要である。</p> <p>(5) キウイ 春季の強風による新梢の折損及び葉の損傷が著しく樹冠の拡大が進まず、また果実肥大も緩慢である。防風対策を強固にする必要がある。</p> <p>(6) ナシ 導入果樹の内最も生育良好であるが、“幸水”では胴枯病の発生が多く、適切な対策が必要である。果実肥大は夏季の土壤乾燥のため、肥大が不十分であり灌水の必要性が高い。ただ、品質的には糖濃度が著しく高く、高品質果実の生産が可能と考えられる。</p>

(7) リンゴ 矮性台利用によって花芽着生が良好となり結実を開始した。普通台とともに樹体生育はいたって良好である。リンゴにおいても低温要求量が高く、休眠打破が不十分で萌芽、開花が長期間にわたっている。

(8) ミカン 着果を開始したが、強風のために、果実に風ズレによる傷の発生が多く、強固な骨格の樹形にする必要がある。

(9) カキ 植え傷みも回復し、旺盛な生長がみられ、結実も開始したが、風による枝の折損、葉の裂傷が認められる。

(10) サクランボ コルト台、普通台共に良好な生育を示している。

(11) クリ 最も活着が悪く、生育不良である。

調査結果の
具体的データ

表-1 ウメの果実品質調査('89年11月収穫)

品種	果実重(g)	横径(mm)	縦径(mm)	果形(横/縦)	糖(brix)	酸(%)
南高	22.1	31.4	35.3	89.0	7.87	3.71
鶯宿	21.6	33.0	36.0	91.7	6.77	3.73

日本での標準果実重は“南高” 25.3 ± 5.87 g, “鶯宿” 25.4 ± 3.68 g

表-2 モモの果実品質調査('89年12月収穫)

品種	果実重(g)	横径(mm)	縦径(mm)	果形(横/縦)	糖(brix)	酸(%)
さおとめ	69.4	50.8	46.4	109.5	11.14	0.28
砂子早生	176.5	70.5	65.5	107.6	9.42	0.44
サマーエース	125.7	60.1	60.1	100.0	11.18	0.27

日本での標準果実重は“さおとめ” 80~120 g “砂子早生” 200 g “サマーエース” 200g

調査結果の
具体的データ

表-3 日本ナシの果実品質調査('89年2月収穫)

品種	果実重(g)	糖(brix)	酸(%)	カラチャート値	日本での標準	
					果実重(g)	糖度(%)
幸水	190.2	13.7	0.94	5.5	250~300	12
新水	185.5	13.6	0.73	5.0	220~250	12~13
豊水	213.8	14.6	0.56	4.0	350~400	12
二十世紀	195.6	16.2	1.00	2.5	300	11

表-4 葉分析結果 (乾物%, '88年度)

種類	N	P	K	C _a	M _g
ウンシュウミカン	3.39	-	1.85	3.25	0.39
ナシ	2.01	-	1.30	3.23	0.37
カキ	2.40	-	2.93	2.15	0.38
モモ	3.13	-	2.08	2.19	0.44
ブドウ	2.10	-	0.68	3.00	0.29
リンゴ	2.03	-	1.36	2.68	0.31
ウメ	2.77	-	3.13	2.54	0.27
ビワ	1.55	-	0.94	3.06	0.34
クリ	2.62	-	0.75	1.87	0.37
キウイ	3.54	-	2.23	2.73	0.48
サクランボ	2.91	-	1.82	3.58	0.51

調査結果の
具体的データ

表-5 主要果樹葉成分の標準含量 (石原:果樹の栄養生理
農業技術体系より抜すい)

(乾物中 %)

種類	N	P	K	Ca	Mg
ミカン	2.80~2.90	0.16	0.90	2.80	0.25~0.30
ナシ	2.50	0.12~0.14	1.20	1.50	0.25
カキ	2.20~2.30	0.12	1.50	1.00	0.25
モモ	3.40~3.50	0.17~0.20	1.60~2.00	1.75	0.35
ブドウ	2.50~2.60	0.15~0.17	0.70~1.00	1.10	0.25
リンゴ	3.40~3.60	0.17~0.19	1.30~1.50	0.80~1.30	0.27~0.40
ウメ	4.66	0.28	4.01	2.16	0.21
ビワ	1.30	0.10	1.98	2.24	0.27
キウイ	1.26	0.81	4.15	0.78	0.41

研究目標 果樹の栽培技術体系の確立
 大課題 繁殖に関する試験
 小課題 台木試験
 試験項目 モモ果実品質に関する台木予備試験

アルゼンティン園芸総合試験場
 担当者 伊藤、長町、我藤、永井、高木、脇田

1988年度

目的 日本のもも品種について、亜国の環境条件に適應した台木を検討する目的で亜国在来の台木を含めて、果実成熟に及ぼす影響を調査した。

調査方法 バラデーロ圃場に栽植中のもも共台、ユスラウメ矮性台、クレアスミージョ台（亜国在来種）三種の台木に接いだ極早生品種「さおとめ」を用い樹体生長、果実品質を調査した。

調査結果

- (1) バラデーロ、サンベドロ近辺のもも産地における台木は在来のクレアスミージョ台が使用されており、栽培品種の生育は極めて良好である。日本ももの共台、ユスラウメ台ともに、萌芽期、開花期が不揃いである。これは、冬季低温要求量が高く休眠打破が不十分であることが原因と考えられる。しかし、クレアスミージョ台では他の2種の台木に比較して、萌芽、開花が揃っていた。更に、バラデーロ圃場では春季の強風のため落葉が多く発生するが、その内でもクレアスミージョ台の樹ではその被害は幾分軽減されており、当地におけるもも台木として適していると考えられる。
- (2) 果実熟期については、ユスラウメ台が最も早く、次いでクレアスミージョ台、共台の順であった。又、品質ではユスラウメ台で高糖、低酸となり、良好であったが共台と共に果実肥大は極めて悪く、品種本来の果実重の70～80%であった。その内でも、クレアスミージョ台が最も大となった。これは、強風による落葉数の差異によると思われる。
- 早期多収を目的とした密植栽培においては矮性台の利用が最も有効であり、日本ではユスラウメ台の普及が進んでおり、熟期の促進、高品質化が認められている。今回の調査においても同様な結果が得られたが、亜国在来のクレアスミージョも新梢の発生状態、伸長量、樹形等からみてももの矮性台としての利用が充分考えられるので今後の検討が必要である。

調査結果の
具体的データ

表-1 3種の台木に接いだモモ「さおとめ」の果実品質

台木種類	果実重 (g)	横径 (mm)	縦径 (mm)	果形 (横 / 縦)	果実硬度 (Kg)
モモ	68.1	49.6	47.2	105.1	1.80
イスラウメ	69.4	50.8	46.4	109.5	1.87
クレスミ-ジョ	78.9	52.6	51.3	102.5	2.13

台木種類	糖 (Brix)	酸 (%)
モモ	8.9	0.36
イスラウメ	11.1	0.28
クレスミ-ジョ	11.0	0.30

研究目標 果樹の栽培技術体系の確立
 大課題 品種適応試験
 小課題 11種類果樹に関する品種適応試験
 試験項目 アルゼンティン国のモモ、ブドウの生育実態調査

アルゼンティン園芸総合試験場
 担当者 伊藤、長町、我藤、永井、高木

1988年度

目的	アルゼンティン国各地の主として日系農家で栽培されているモモ、ブドウについて樹体成長、果実品質等を調査し、日本から導入した優良果樹品種の亜国における適応性を検討する目的で本調査を実施した。																				
調査方法	<p>(1) 調査品種及び地区、時期</p> <table border="0"> <tr> <td>モモ</td> <td>倉方早生</td> <td>ブエノスアイレス州、サンタ</td> <td>モニカ移住地</td> <td>1989年12月</td> </tr> <tr> <td></td> <td>RED GLODE</td> <td>ブエノスアイレス州、サン</td> <td>ペドロ 移住地</td> <td>1990年1月</td> </tr> <tr> <td></td> <td>サンペドロ16-33</td> <td>ミシオネス州、</td> <td>ガルアッペ 移住地</td> <td>1989年10月</td> </tr> <tr> <td>ブドウ</td> <td>生食、醸造用品種</td> <td>メンドサ州、</td> <td>アンデス移住地</td> <td>1989年2月</td> </tr> </table> <p>(2) 調査項目 果実品質調査及び樹体成長</p>	モモ	倉方早生	ブエノスアイレス州、サンタ	モニカ移住地	1989年12月		RED GLODE	ブエノスアイレス州、サン	ペドロ 移住地	1990年1月		サンペドロ16-33	ミシオネス州、	ガルアッペ 移住地	1989年10月	ブドウ	生食、醸造用品種	メンドサ州、	アンデス移住地	1989年2月
モモ	倉方早生	ブエノスアイレス州、サンタ	モニカ移住地	1989年12月																	
	RED GLODE	ブエノスアイレス州、サン	ペドロ 移住地	1990年1月																	
	サンペドロ16-33	ミシオネス州、	ガルアッペ 移住地	1989年10月																	
ブドウ	生食、醸造用品種	メンドサ州、	アンデス移住地	1989年2月																	
調査結果	<p>(1) モモ ミシオネス州におけるモモ栽培地帯は亜熱帯に属し、休眠打破が十分に完了していないため萌芽、開花時期が極めて不揃いである。このため、成熟期も不揃いで収穫期間は1ヶ月以上にも及ぶことが稀ではない。しかし、現地においては、出荷時期の延長が可能となるため歓迎されている。樹体生長は極めて旺盛で、二次、三次伸長が見られ、副梢の発生も多く、放任すれば過繁茂の状態となるため夏期剪定が重要な技術となっている。果実品質は、亜国品種は黄肉ゴム質で香気を有し酸含量が高いのに対して、日本品種は白肉多汁で酸含量が極めて低い。又、果形は亜国品種では果頂部が尖っておりその部分の軟化、荷痛みが多いのに対し、日本品種は球形のためその心配は無い。しかし全体的には亜国品種はゴム質のため輸送性は高いと判断されている。</p> <p>(2) ブドウ メンドサ州におけるブドウ栽培は醸造用品種が主体であり、房重は160g ~ 1kg, 一粒重 1.9g ~ 6.7g と極めて多様な品種を有している。栽培地が乾燥地であり、成熟期における水切りが可能であるため極めて高い糖濃度を示す。しかし、一房内における果粒の大きさ、熟度の不均一が見られる。摘粒等の結実管理を施せば生食用ブドウとして立派なものになると考えられる。日本品種の巨峰は果粒の大きさが特徴の品種であるので、新梢管理及び摘粒の実施により品種の特徴を出すよう注意すればその消費は大きく伸びるものと考えられる。いずれの品種も新梢生長が3m以上におよびこのことが花振いの原因となり粒の疎着を招いているので生食用として栽培するには新梢生長を抑える必要がある。</p>																				

調査結果の
具体的データ

表-1 各地産モモ品種の果実品質

品種	生産地	果実重 (g)	果形 (横/縦)	糖 (BRIX)	酸 (%)	調査日
サンペドロ 16~33	ミシオス 州	147.5	91.5	7.9	0.77	'89.10
倉方早生	フェノス アイス 州	290.5	112.5	9.9	0.18	'89.12
RED GLODE	フェノス アイス 州	194.7	96.6	11.5	0.82	'90.01

表-2 メンドサ州アンデス移住地のブドウ品種の
新梢生長と果実品質 ('89年2月調査)

品種	果房重 (g)	果房長 (cm)	果粒数	果粒重 (g)	糖 (BRIX)	酸 (%)
Cereza	526.8 g	25.5	78 個	6.72	23.2	0.79
Moscatel Rosado	959.5 g	27.1	204 個	4.70	23.0	0.88
Pedro Gimenez	286.7 g	21.8	85 個	3.37	23.1	0.99
Barbera	222.6 g	16.2	72 個	2.69	22.2	1.08
Tempranilla	165.9 g	18.3	113 個	1.89	26.8	0.92
巨峰	252.1 g	27.0	31 個	7.78	15.6	1.11

品種	樹冠 (m)	新梢長 (m)
Cereza	3 x 2	3
Moscatel Rosado	3 x 3	3
Pedro Gimenez	2.5 x 2.5	3.5
Barbera	2.5 x 2.5	3
Tempranilla	2 x 3	2.5
巨峰	6 x 6	3.3

研究目標 カーネーションの栽培技術改善
 大課題 栽培管理に関する試験
 小課題 塩類集積土壌の休閑更生に関する試験
 試験項目 植えつけ跡地の塩類に関する試験

アルゼンティン園芸総合試験場
 担当者 脇田、長町

1989年度

目的	カーネーションのハウス栽培においては、施肥、灌水等で塩類集積が生じ生育の阻害要因として問題となる。この塩類集積問題は、土地の休閑更生で問題解決に当たっているが、休閑後、年月の経過とともにどの程度塩類集積が解消しているかを知るため本試験を行なう。			
試験計画				
1. 試験区				
(1) 休閑後の土地	1年目	2年目	3年目	
(2) 対照区	耕作地			
2. 採土場所				
深さ	表面～5cm	5cm～10cm	10cm～15cm	15cm～20cm
3. 土壌分析内容				
N, NO ₃ -N, C, K, P, Ca, Mg, Mn, Na pH (H ₂ O), (KCl), EC				

研究目標 カーネーションの栽培技術改善
 大課題 優良苗育成に関する試験
 小課題 茎頂培養の培地組成に関する試験
 試験項目 茎頂培養の培地組成に関する試験

アルゼンティン園芸総合試験場
 担当者 嘉味田、佐々木、長町

1989年度

目的	<p>当試験場におけるカーネーション茎頂培養は、品種によりいまだ培養の成功率の低いものもある。このため、成功率を高めるため培地に使用するホルモンの種類と濃度を検討し培養成功率を高めるために本試験を実施する。</p>																
試験計画	<p>1. 使用培地 MS 培地</p> <p>2. 供試ホルモンと濃度</p> <table style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>mg</th> <th>mg</th> <th>mg</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>KINETINE</td> <td>0.1</td> <td>0.2</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>NAA</td> <td>0.1</td> <td>0.2</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>IAA</td> <td>0.5</td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 試験区 KINETEINE, NAA, IAA を使用しそれぞれの異なる量を組み合わせた試験区を設ける。</p> <p>4. 供試品種 PALLA, SACHA, SCANIA, NORA</p>		mg	mg	mg	KINETINE	0.1	0.2	0.5	NAA	0.1	0.2	0.5	IAA	0.5	1.0	2.0
	mg	mg	mg														
KINETINE	0.1	0.2	0.5														
NAA	0.1	0.2	0.5														
IAA	0.5	1.0	2.0														

研究目標 キクの栽培技術改善
 大課題 優良苗育成に関する試験
 小課題 茎頂培養の培地組成に関する試験
 試験項目 茎頂培養の培地組成に関する試験

アルゼンティン園芸総合試験場
 担当者 嘉味田、長町

1989年度

目的	茎頂培養によるキクの無菌苗生産技術の確立のため培地の組成とホルモン濃度を決定するため、本試験を実施する。		
試験計画			
1. 使用培地	MS 培地		
2. 供試ホルモンと濃度	mg	mg	mg
KINETINE	0.1	0.2	0.5
NAA	0.1	0.2	0.5
IAA	0.5	1.0	2.0
3. 試験区	KINETINE, NAA, IAA を使用しそれぞれの異なる量を組み合わせた試験区を設ける。		
4. 供試品種	大輪系 : 乙女桜 スプレーギク : ゴットンボール他 5 品種		

研究目標 キクの栽培技術改善
 大課題 優良苗育成に関する試験
 小課題 新品種導入及び現地適応試験
 試験項目 スプレーギクの品種比較試験

アルゼンティオン園芸総合試験場
 担当者 脇田、長町

1989年度

目的	アルゼンティオン国では、スプレーギク生産はいまだ多くないが、世界的には増加しつつあり、近い将来当国でも普及すると思われる。したがって、ア国に適する品種の選抜を行ない、作型ごとの栽培方法を確立する目的で本試験を実施する。
試験計画	<p>1. 供試品種 当試験場で収集した42品種</p> <p>2. 作型 夏作（遮光栽培） 冬作（花芽分化時加温）</p> <p>3. 供試本数 各区12本</p> <p>4. 調査項目</p> <p>生育調査：草丈、分枝数、葉枚数、発蕾日、開花日、開花数</p> <p>品質：花色、切花長、葉数</p>

研究目標 夏ギクの栽培技術改善
 大課題 優良苗育成に関する試験
 小課題 新品種導入及び現地適応試験
 試験項目 夏ギクの栽培実証試験

アルゼンティン園芸総合試験場
 担当者 脇田、佐々木

1989年度

目的	優秀な夏ギク品種があるにもかかわらず、アルゼンティン園では、未だその利用がなされていない。栽培を実証し普及を図る。
試験計画	<p>1. 供試品種 アンコール他4品種のスプレーギク、精雲、天寿（黄色）</p> <p>2. 親株育成 2月中旬挿し芽、適宜切り戻す。光中断3時間処理を継続する。</p> <p>3. 育苗 挿し芽9月上旬。</p> <p>4. 処理 摘芯後40日間の電照の有無。</p> <p>5. 供試株数 40株 / 品種</p> <p>6. 調査項目 開花時期、切花の品質</p>

研究目標 その他の花卉栽培技術改善
 大課題 フリーズアの栽培技術改善
 小課題 栽培及び栽培型に関する試験
 試験項目 種子による切り花及び球根生産と木子によるものとの比較

アルゼンティン園芸総合試験場
 担当者 脇田、長町

1989年度

目的	<p>種子を用いた場合の切り花品質及び球根の肥大と種子からの1作後に収穫した木子によるそれを比較する。</p>
試験計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 種子及び木子の催芽時期 種子 2月15日、3月17日。木子 3月17日。 2. 供試株数 各区 50 3. 調査項目 開花時期、切り花の品質、主球茎の肥大及び木子収量、ウイルス汚染株。

研究目標 その他の花卉栽培技術改善
 大課題 フリースアの栽培技術改善
 小課題 栽培及び栽培型に関する試験
 試験項目 促成栽培における球根冷蔵について

アルゼンティン園芸総合試験場
 担当者 脇田、長町

1989 年度

目的	種子系品種の適当な冷蔵方法を検討する。
試験計画	<p>1. 冷蔵 定植を4月上旬に一斉に行なうこととし、温度 8 ~ 10°C で次の各処理を行なう。</p> <p>乾燥冷蔵： 冷蔵期間 45 日 湿潤冷蔵： 冷蔵期間 0 日（対照）、35 日、40 日、45 日、50 日（休眠打破確認後開始）。</p> <p>2. 供試株数 各区 50</p> <p>3. 調査項目 開花日、切花の品質。</p>

研究目標 その他の花卉栽培技術改善
 大課題 フリーズアの栽培技術改善
 小課題 栽培及び栽培型に関する試験
 試験項目 抑制栽培における定植時期と開花期及び切花の品質との関係

アルゼンティン園芸総合試験場
 担当者 脇田、長町

1989年度

目的	抑制栽培における定植時期と開花期及び切花の品質との関係を検討し、抑制栽培における開花時期の限界を明らかにする。
試験計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 球根の貯蔵及び定植時期 球根打破後 2°C 乾燥で冷蔵し、次の各時期に定植する。 定植前にそれぞれ 30°C で高温処理する（4～6 週間）。 定植時期 7 月 15 日、8 月 14 日、9 月 13 日、10 月 3 日。 2. 1 倍式球数 各区 50 3. 調査項目 開花日、切花の品質。

研究目標 その他の花卉栽培技術改善
大課題 トルコギキョウの栽培技術改善
小課題 栽培及び栽培型に関する試験
試験項目 秋播き栽培における品種比較試験

アルゼンティオン園芸総合試験場
担当者 嘉味田、佐々木

1989年度

目的	秋まき栽培における適品種を選抜する。
試験方法	1. 3月15日には種とし、“都紫”他 17 品種を供試する。 2. 供試株数 50株 / 品種 3. 調査項目 開花時期、切花の品質

研究目標 その他の花卉栽培技術改善
 大課題 トルコギキョウの栽培技術改善
 小課題 栽培及び栽培型に関する試験
 試験項目 冬切り栽培の作型開発試験

アルゼンティン園芸総合試験場
 担当者 嘉味田、佐々木

1989年度

目的	1988年度実験で、夏播きにおけるロゼット回避方法は明らかとなったが、開花時期が晩春となった。冬季特に花芽分化時期の管理温度を高めて再検討する。
試験計画	<p>1. 供試品種 都紫、都白、都桃</p> <p>2. 2月1日に播種し、40日間夜温を17℃で育苗する。</p> <p>3. 定植後10葉節展開時より夜温を15℃に加温する。</p> <p>4. 供試株数 50株 / 品種</p> <p>5. 調査項目 開花時期、切花の品質</p>

研究目標 果樹の栽培管理技術体系の確立
大課題 病虫害防除及び生理障害防止対策
小課題 生理障害防止基準の検討
試験項目 ブドウの縮果病、日焼け障害の対策

アルゼンティン園芸総合試験場
担当者 松本、脇田、長町、高木

1989年度

目的	当国の夏季は土壌乾燥が強く、更に日射量が著しく、ブドウ品種 "巨峰" "ピオーネ" 等に縮果病、日焼けの発生が多く見られる。これら生理障害に対する対策はブドウ栽培上重要である。
試験計画	<p>1. 供試果樹品種</p> <p>ブドウ： 巨峰、 ピオーネ</p> <p>2. 処理及び調査項目</p> <p>副梢の発生を摘心によって促し、果房への日射量の直射を制御する。</p> <p>調査項目としては、生理障害の発生状態、結実性及び果実品質。</p>

研究目標 果樹の栽培管理技術体系の確立
 大課題 繁殖に関する試験
 小課題 台木試験
 試験項目 矮性台木利用による樹体生長、果実品質の比較試験

アルゼンティン園芸総合試験場
 担当者 長町、脇田、高木

1989年度

目的	<p>矮性台木利用による密植栽培は初期収量を上げ、土地の生産性を高めるのに有効な手段である。</p> <p>アルゼンティン国土壌における矮性台木利用の場合の樹体生長、果実品質及び結実性を調査し、当国における矮性台木利用の可能性を検討する。</p>
試験計画	<p>1. 供試果樹品種</p> <p>モモ : ユスラウメ台、共台、クレアスミージョ台。</p> <p>サクランボ : アオバザクラ台、コルト台。</p> <p>リンゴ : M 9、M 26、マルバカイドウ台。</p> <p>2. 調査項目</p> <p>着花数、結実率、果実肥大、果実品質。</p> <p>新梢生長、樹冠生長を調査する。</p>

研究目標 果樹の栽培技術体系の確立
 大課題 結実に関する試験
 小課題 生長調節物質利用の検討
 試験項目 ブドウ "アーリースチューベン" の無核果生産

アルゼンティン園芸総合試験場
 担当者 長町、脇田、高木

1989年度

目的	<p> 導入品種 "アーリースチューベン" は結実性、品質共に優良であるが、果粒小で有核のため、そのままでは商品性が劣る。 本品種はGAによる無核化が容易であり、それによる熟期促進が可能であるため、当国におけるブドウの出荷以前に収穫でき、商品性が高まると考えられる。 </p>
試験計画	<p> 当試験場に栽植中のブドウ "アーリースチューベン" を供試し、GA濃度、処理時期をかえて、その効果を検討する。 調査項目としては、無核果形成率、果実肥大、熟期促進程度及び果実品質。 </p>

研究目標 果樹の栽培技術体系の確立
 大課題 品種適応試験
 小課題 11種類に関する品種適応試験
 試験項目 アルゼンティン国における導入果樹の生育実態調査

アルゼンティン園芸総合試験場
 担当者 伊藤、長町、脇田、高木、永井

1989年度

目的	日本よりの導入果樹もようやく初期結実を見るに至った種類が多い。これら果樹の生育生態及び果実生長のパターンを調査し、アルゼンティン国での栽培に対する問題点及び主要栽培管理の体系化のための基礎資料を得る。
試験計画	<p>1. 供試果樹品種</p> <p>クリ、サクランボを除く9種果樹のうち結実を開始した品種に付いて行なう。</p> <p>2. 調査項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 萌芽、開花、新梢伸長、落葉の時期とその様相。 ○ 結実性及び果実肥大、品質の調査。

アルゼンティン園芸総合試験場長期総合試験計画

研究目標	研究課題			期間	1989年試験項目	
	大課題	中課題	小課題			
カーネーションの栽培技術改善	I 栽培管理に関する試験	施肥および土壌管理に関する試験	・ 塩類集積土壌の休閑更生に関する試験	1988~89年	植付け跡地の塩類に関する試験	
			・ 施肥基準の検討			
			・ 土壌の化学性に関する試験			
			・ 灌漑水の化学分析			
			・ 定植時期と開花期に関する試験			
	II 優良苗木育成に関する試験	・ 定植時期に関する試験	・ 灌漑水の水質に関する試験	済		
			・ 定植時期に関する試験			
	III 優良系統選抜に関する試験	・ 優良系統選抜に関する試験	・ 定植時期に関する試験	済	1987-89年一部済	茎頂培養の培地組成に関する試験
			・ 茎頂培養に関する試験			
			・ 植込み外植体の質に関する試験			
	IV 病害虫防除に関する試験	・ 病害に関する試験	・ 優良系統の農家圃場における選抜	継続	継続	カーネーションの優良系統選抜試験
			・ 優良系統の栽培選抜試験			
	V 開花調節および切花の貯蔵に関する試験	・ 開花調節に関する試験	・ 新品種の導入および展示	1989~91年	1988~90年	
			・ 開花調節に関する試験			
		・ 切花処理に関する試験	・ 園芸総合試験場のウイルス汚染調査	1988~90年	一部済	
・ 農家栽培株の立ち枯れ性病害汚染調査						
		・ 日長処理による開花調節に関する試験				
		・ 切花の延命剤と蕾開花剤に関する試験				

研究目標	研究課題			期間	1989 試験項目			
	大課題	中課題	小課題					
キクの栽培技術改善	I 栽培管理に関する試験	<ul style="list-style-type: none"> ・作型確立に関する試験 ・施肥および土壌管理に関する試験 ・灌漑水の水質に関する試験 ・茎頂培養に関する試験 ・スプレーキクの品種系統に関する試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・日長処理による開花調節に関する試験 ・日長と開花限界気温に関する試験 ・切花キク栽培法の確立 ・施肥基準の検討 ・土壌の化学性に関する試験 ・塩類集積土壌の休耕更生に関する試験 ・灌漑水の化学分析 	1989年~				
			II 優良苗育成に関する試験	<ul style="list-style-type: none"> ・茎頂培養法に関する試験 ・新品種導入および現地適応試験 ・各作型に適した品種の検索 	一部済 1988~90年	茎頂培養の培地組成に関する試験		
				I 栽培管理に関する試験	<ul style="list-style-type: none"> ・施肥および土壌管理に関する試験 ・灌漑水の水質に関する試験 ・品種系統に関する試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・有機物施用試験 ・施肥基準の検討 ・土壌の物理性と化学性に関する試験 ・灌漑水の化学分析 ・台木に関する試験 ・品種の導入及び現地適応試験 	一部済 1988~90年	夏咲キクの栽培実証試験
			II 品種系統に関する試験			<ul style="list-style-type: none"> ・品種系統に関する試験 		品種比較試験

研究目標	研究課題			期間	1989年試験項目
	大課題	中課題	小課題		
その他の花卉栽培技術改善	I 宿根カスミ草の栽培技術改善	・優良苗育成に関する試験	・茎頂培養法に関する試験	1988-91年	
			・育苗法に関する試験		
		・栽培管理に関する試験	・栽培及び栽培型に関する試験		
			・新品種の導入及び現地適応試験		
			・栽培及び栽培型に関する試験	1988年~	種子と本子の比較 抑制・定根冷感方法 抑制・定植期と開花
			・新品種の導入及び現地適応試験		
	II フリージアの栽培技術改善	・栽培管理に関する試験	・栽培及び栽培型に関する試験	1988年~	増殖期と開花期 冬切り栽培作型開発
			・新品種の導入及び現地適応試験		秋まき品種比較
	III トルコギキョウの栽培技術改善	・栽培管理に関する試験	・栽培及び栽培型に関する試験	1988年~	
			・新品種の導入及び現地適応試験	1988年~	
	IV 鉢花用花卉の栽培技術改善	・栽培管理に関する試験	・アザレアに関する試験		試作
			・ポインセチアに関する試験		試作
・カラコンコエに関する試験				試作	
・エラチオベルゴニアに関する試験					
・大菊の補助作りに関する試験				試作	

研究目標	研究課題			期間	1988年試験項目
	大課題	中課題	小課題		
イチゴの栽培技術改善	I 栽培管理に関する試験	・施肥及び土壌管理に関する試験	・施肥基準の検討 ・土壌の化学性に関する試験		
		・作型に関する試験	・品種特性調査と作型に関する試験	1988年~	
	II 優良苗育成に関する試験	・莖頂培養に関する試験	・莖頂培養法に関する試験 ・莖頂培養苗の能力検定	1988年~	莖頂培養苗の変異検定試験
		・品種系統に関する試験	・優良系統の選抜試験 ・新品種導入と適応試験	1988年~	優良系統選抜試験
IV 病虫害防除に関する試験	・ウイルスに関する試験	・ウイルスに関する試験			

研究目標	研究課題			期間	1989年試験項目
	大課題	中課題	小課題		
果樹の栽培技術体系の確立 （日本ナシ、モモ、カキ、サクランボ） 果樹の生産実態調査（日本ナシ、サクランボ、モミ、カキ、ヒワ）	I. 品種適応試験	・11種類に関する品種適応試験 （日本ナシ、モミ、サクランボ、カキ、ヒワ）	・11種類に関する品種適応試験 （日本ナシ、モミ、サクランボ、カキ、ヒワ）	1986~	アルゼンチン国における導入果樹の生産実態調査（日本ナシ、サクランボ、モミ、カキ、ヒワ）
	II. 繁殖に関する試験	・接木に関する試験	・台木試験（キウイ、ブドウ、ウメ、カキ） ・挿木試験（キウイ）	1986~	矮性台木利用による樹体生長、果実品質の比較調査（モミ、サクランボ、カキ、ヒワ）
	III. 栽植密度に関する試験	・挿木に関する試験 ・栽植密度に関する試験	・挿木試験（キウイ） ・矮性台木による密植栽培試験（モミ、カキ、ヒワ、サクランボ）	1986~ 1987~	
			・同上（サクランボ）	1989~	
			・普通台木による密植栽培試験（モミ、カキ、ヒワ、サクランボ）	1987~	
	IV. 整枝剪定に関する試験	・立木仕立てに関する試験	・開心自然整形整枝試験（ウメ、モミ、カキ、クリ）	1986~	
		・変則主幹整形整枝試験（ヒワ、カキ、クリ）	1986~		
		・棚仕立てに関する試験	1986~		
V. 結実に関する試験	・果実肥大に関する試験	・果実肥大に関する試験	1991~		

研究目標	研究課題			1988年試験項目	
	大課題	中課題	小課題		
					期間
	<ul style="list-style-type: none"> ・外觀、品質に関する試験 ・熟期調節に関する試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・袋掛け試験 (日本、オランダ、イギリス) ・生長調節物質利用の検討 (日本、オランダ、イギリス) ・ハウス栽培の検討 (イギリス) 	1991~		
			1992~	ブドウ"アーリースチュエーベン"の無核果生産	
			1992~		
	VI. 土壌管理に関する試験	<ul style="list-style-type: none"> ・施肥管理に関する試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・養分診断調査 (日本、オランダ、イギリス、フランス) 	1986~	
			<ul style="list-style-type: none"> ・施肥試験 (日本、オランダ、イギリス、フランス) 	1990~	
	VII. 病害虫防除及び、生理障害防止対策	<ul style="list-style-type: none"> ・病害虫防除対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・病害虫診断調査 (日本、オランダ、イギリス、フランス) 	1986~	
			<ul style="list-style-type: none"> ・病害虫防除基準の検討 (日本、オランダ、イギリス、フランス) 	1986~	
		<ul style="list-style-type: none"> ・生理障害防止対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・生理障害診断調査 (日本、オランダ、イギリス、フランス) 	1986~	
			<ul style="list-style-type: none"> ・生理障害防止基準の検討 (日本、オランダ、イギリス、フランス) 	1986~	ブドウの結果病、日焼け障害の対策

JICA